



**来たれ岩手県へ！**

**先輩獣医師からのメッセージ**

# 目次

## 家畜衛生獣医師編

家畜保健衛生所 畜産研究所 農業大学校

## 公衆衛生獣医師編

食肉衛生検査所 保健所 環境保健研究センター

## 行政編

農林水産部畜産課 環境生活部自然保護課 保健福祉部医療政策室

## 行政編

農林水産部 環境生活部 県民くらしの安全課

## その他

子育て編      Iターン編      再就職編  
岩手県獣医師修学資金編      部局間人事交流編



# 家畜衛生獣医師編 県北家畜保健衛生所

## ミッションは家畜を病気から守ること

近年、経済発展に伴い、人や物の移動がグローバル化し、海外の高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫、豚コレラなどの急性伝染病が国内に侵入する機会が高まっています。これらの伝染病から、家畜を守るための重要な仕事をしています。



乳牛の採血  
(ブルセラ病検査)

## 農場主の満足が、仕事の喜びにつながる

牛ヨーネ病などの伝染病発生農場で、清浄化を達成し、農場主の満足な笑顔を見られたり、感謝の言葉をいただいた時、大きな喜びを感じますし、次に待っている農場での仕事にやる気ができます。



鶏の気管スワブ採材  
(鳥インフルエンザ検査)

## 成果を発表し、次のステップへ

日常業務での成果を取りまとめ、家畜保健衛生業績発表会で発表しています。優秀な演題は全国発表会に選ばれ、全国の家畜保健衛生所職員とのネットワークにつながっています。学会や論文発表をしながら自己研鑽できる環境も整っています。



浅野 隆 (岩手県出身)  
日本獣医生命科学大学 (獣医外科学) 平成4年卒

【採用から現在まで】  
平成4年入庁  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所  
本庁畜産課  
県北家畜保健衛生所

# 家畜衛生獣医師編 中央家畜保健衛生所

## 家畜のコンディションをベストに保つ

家畜保健衛生所では、乳牛の乳量アップや乳質改善、繁殖牛の繁殖成績の向上、子牛や肥育牛の増体量の確保など、家畜の生産性向上を支援しています。家畜の生産性を上げるためには、家畜をベストコンディションに保つことが必要です。慢性疾病の予防や対策、飼料の給与法について、検査成績をもとに農家とディスカッションしながら、改善を図っています。



牛の採血後、  
現地で血液検査

## 畜産農家のため、牛のためを心がけて

農家の成績が向上し、「お陰様で、たいしたよくなったよ。」…この一言を聞いた時、仕事のやりがいをととても感じます。家畜をベストコンディションにすることは、「牛のため」と同時に「畜産農家のため」であり、これらの視点を常に心がけています。



乾草ロールをテーブル代わり  
にディスカッション

## 牛とともに働ける楽しい職場

獣医師になった動機が「動物が好き」であった私にとって、家畜保健衛生所は、牛とともに仕事ができる楽しい職場です。お付き合いしてきた農家の牛の状態がよくなっていき、畜産農家に喜ばれる仕事ができる時、うれしさは2倍です。

【採用から現在まで】  
昭和63年入庁  
中央家畜保健衛生所  
畜産研究所

細川 泰子（岩手県出身）

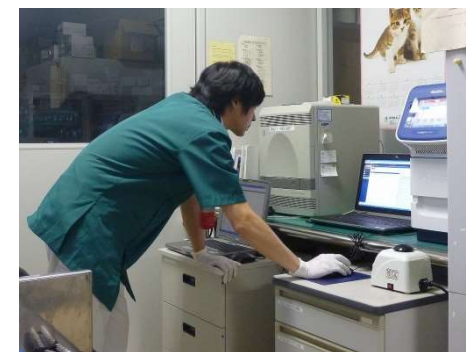
北里大学（獣医寄生虫学研究室・講座）昭和63年卒



# 家畜衛生獣医師編 中央家畜保健衛生所

## 仕事の成果を畜産現場に役立てたい

私の所属する病性鑑定課では、病理・生化学・細菌・ウイルスの各担当が疾病の診断を行っています。特に畜産経営に大きな損失を与える伝染病（高病原性鳥インフルエンザなど）の診断は、その被害を最小限に抑えるため、正確で迅速な検査が必要になります。



鳥インフルエンザ検査

## 努力が報われた瞬間

業務で得られた成果は、口頭発表や学術誌への投稿により公表します。平成25年度は、毛根を利用した新たな検査法を開発し、全国発表会で農林水産大臣賞をいただきました。また学術誌への投稿は、苦勞もありますが、掲載された時の喜びはひとしおです。



毛根内のウイルス抗原

【採用から現在まで】  
平成15年入庁  
畜産研究所  
中央家畜保健衛生所

## スキルアップを目指して

代々のウイルス担当者は、BVDウイルスの研究を蓄積し、成果を公表してきました。その中で学位を取得された先輩もいらっしゃいます。私が業務に励めるのも、経験豊富な諸先輩方のご指導のおかげです。日々精進し、役立つ情報を発信していきたいです。

福成 和博（岩手県出身）  
日本大学（生理学研究室） 平成15年卒





# 家畜衛生獣医師編

畜産研究所種山畜産研究室

## 優良遺伝子製造戦略「岩手県の黒毛和種種雄牛造成」

県内飼養の約3万3千頭の雌牛から、産肉性などに優れた雌牛200頭を選定し、その雌牛から生産された雄牛の選抜を重ねます。次いで、その中から、高い能力を子牛に伝えることが確認された1~3頭が晴れて種雄牛となり、和牛生産農家に凍結精液を供給されます。



治療薬の経口投与

## 重責「種雄牛は地域の思い！！」

種雄牛は地域の改良の成果であり、改良をけん引する原動力です。それだけに関係者の期待は大きく、種雄候補牛・種雄牛の飼養管理は気が抜けません。特に健康管理には注意が必要で、治療や飼養面で苦勞した牛が晴れて種雄牛に選抜された時は、重責を果たした安堵感と、改良の一翼を担っている充実感があります。



角の包帯交換

## 目標は「日本一の和牛産地」

種雄牛造成は、奥が深く長い歳月を要します。1頭の優れたスーパー種雄牛の出現は数百億円の経済効果をもたらし、地域に活力を与えてくれます。今まで蓄積されたデータを基に、県内和牛農家の皆さんや関係者と協力して「日本一の和牛産地・いわて」の実現を目指しています。

昆野 勝（岩手県出身）  
日本大学（臨床病理研究室） 平成2年卒



【採用から現在まで】  
平成2年入庁  
中央家畜保健衛生所  
畜産研究所  
県南家畜保健衛生所

# 家畜衛生獣医師編 農業大学校

## 農業の担い手を育てています

広大な敷地で乳牛や肉牛に直接触れながら、酪農経営や肉畜経営に必要な技術力や経営管理能力を養う実践教育に携わっています。講義・実習の他、飼養している乳牛・肉牛の健康管理も行っています

## 教育と生産の場です

農業大学校では、生産物である生乳、子牛、肥育牛を地元のJAを通して出荷しています。食品の生産をしているという意識を持って毎日の飼養管理や診療を行っています。

## 後継者の巣立ちを喜びに

講義や実習の時間に限りがありますが、毎日の管理を通して、観察や消毒が家畜を病気から守り、安全・安心な畜産物を生産する基本であることを実感して卒業してもらえるように心がけています。

菊池 普貴子（岩手県出身）  
岩手大学（微生物学研究室） 昭和56年卒



解剖実習



飼養牛の治療

【採用から現在まで】  
昭和60年入庁  
花巻家畜保健衛生所  
宮古地方振興局  
盛岡家畜保健衛生所  
遠野地方振興局  
中央家畜保健衛生所  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所  
農業大学校



# 公衆衛生獣医師編 食肉衛生検査所

## 安全な食肉を確保するための最後の砦！

安全な食肉の確保は、私たち獣医師の手に委ねられています。

公衆衛生獣医師として、安全だけでなく「安心」も届けることを常に意識し、疾病・異常牛の排除、微生物汚染の防止、残留有害物質の排除に取り組んでいます。



BSE検査用延髄採材

## 高度な衛生管理で岩手から世界に！

当所が管轄すると畜場は、米国などの衛生管理水準と同等な施設設備を有し、HACCP方式に基づく衛生管理により、米国をはじめ世界各国に牛肉を輸出しています。私たちは、その衛生管理の検証業務を行い、安全・安心な牛肉づくりに携わっています。



衛生管理検証業務

## 様々な公所で業務を経験

保健所、県庁、食肉衛生検査所と様々な公所で業務を経験し、また、県庁県民くらしの安全課時代には、総務省の自治大学校において半年間、総合的な政策形成や行政管理などについて研修を受けるなど、行政マンとして幅広く研鑽を積んでいます。

阿部 嘉智（岩手県出身）

麻布大学（栄養学研究室） 平成7年卒



### 【採用から現在まで】

平成7年入庁  
大船渡保健所  
宮古保健所  
本庁保健福祉企画室  
本庁保健衛生課  
本庁県民くらしの安全課  
一関保健所  
食肉衛生検査所



# 公衆衛生獣医師編

食肉衛生検査所

## 食の安全・安心を守る

『と畜検査』とは何か皆さんご存知でしょうか？皆さんの食べている食肉は、実は獣医師がすべて検査しています。生きているときの状態から内臓の一つ一つまで、触診や望診、必要に応じて精密検査（細菌・理化学・病理）を行い、異常・疾病肉を排除しています。店頭に並んでいるあるいは焼肉屋で焼いている、そのお肉やホルモンは、私が検査したものかもしれません。



生体検査では耳標も確認

## 採用時のバックアップ

初任地である当検査所は獣医師だけの職場で、それが良かったなと思います。と畜検査・法律・輸出業務、すべて時間をかけて丁寧に教えてもらい、毎日できることが増えていくことが楽しく、自信にもつながりました。採用3年目を迎え、新しい業務だけでなく今度は自分がサポートすることも、採用当時を思い出して頑張っています。



食肉フォーラムの告知でTVに

山本 裕紀（埼玉県出身）  
岩手大学（食品安全学研究室）平成24年卒



【採用から現在まで】  
平成24年入庁  
岩手県食肉衛生検査所

# 公衆衛生獣医師編 宮古保健所

## 大切な命を守りたい

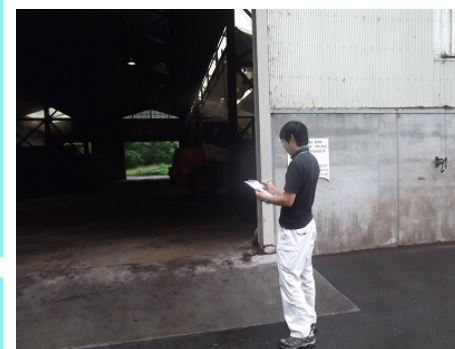
人々の動物愛護の意識は年々高まっています。私たちは、それに対応しながら、保健所に引取りを依頼される犬猫を減らす取り組みをしたり、迷い犬や迷い猫を新しい飼主さんに譲渡したりと、保健所で失われる命がゼロになるよう努力しています。



動物の飼い方相談

## 様々な分野のメンバーと一緒に

保健所には、獣医師以外にも薬剤師や食品・環境衛生監視員など、様々な分野のメンバーがいます。自分と違う考え方や知識を持ったメンバーに囲まれながら仕事をすることで、自分自身の見識を広げ、大きく成長することができます。



堆肥化施設の確認

## 広い分野の仕事を

保健所の業務以外にも、鳥獣保護、自然保護、公害、廃棄物など、多くの業務があります。あまり馴染みのない分野もあるかと思いますが、どれも人々の生活に密接に関係する、とてもやりがいのある仕事です。

【採用から現在まで】  
平成23年入庁  
県央保健所  
宮古保健所

遠藤 大輔（岩手県出身）  
岩手大学（獣医解剖学研究室） 平成19年卒

# 公衆衛生獣医師編 釜石保健所

## 業務紹介

【食の安全・安心対策の推進】県食品衛生監視指導計画に基づき食品営業施設、給食施設等の衛生監視指導を行っています。また、食品衛生に関する各種講習会を行っています。

【狂犬病予防業務・動物愛護対策の推進】放浪犬の捕獲・保護、犬・猫の譲渡事業、適正飼養講習会、動物愛護週間事業などを行っています。県民の皆様の声を直接聞く機会が多いです。

## 大変な分、喜びも大きいです

先日、犬が水路の中で弱っているとの通報を受け駆けつけました。特徴は赤い首輪のみ。2時間聞き込みを続け、ようやく飼主がわかりました。無事に引き渡し、保護してくれた方や飼主さんと喜びを分かち合いました。帰りに見た景色がいつもより輝いているように感じました。

## 職場の雰囲気かステキです

薬剤師、保健師、看護師、社会福祉士その他たくさんの業種の方や、様々な経験を持っている方が同じフロアで働いています。色々な方とお話することで獣医学以外の知識も増えますし、社会を知るきっかけになると感じています。また、休日には地元のイベント等に皆さんと一緒に参加しています（五葉山山開き、田植え体験、釜石よいさなど）。

安田 理（岩手県出身）  
北里大学（獣医衛生学講座） 平成17年卒



保護された子猫



食品衛生に関する講習会

【採用から現在まで】  
平成26年入庁  
釜石保健所





### 人の健康も守る

当機関は地方衛生研究所とも呼ばれ、県民の健康と環境を守るための技術的拠点、シンクタンクとしての機能を持ち、①さまざまな危機管理に対応した試験検査・監視測定、②行政課題に対応した調査研究、③技術支援、情報発信、研修指導などを行っています。



患者移送訓練

### 追求する喜び～岩手、日本、世界

新興・再興感染症（新型インフルエンザ、ポリオ）、市中感染症（インフルエンザ、ノロウイルス胃腸炎、腸管出血性大腸菌感染症）の病原微生物検査は、公衆衛生行政のみならず、医療との関わりも深い重要な業務です。地域型、国施策型、国際機関連携型の研究フィールドを持ち、最先端の研究は大きな充実感をもたらしてくれます。

<研究テーマの例>

小児呼吸器ウイルスの分子疫学、ポリオウイルスサーベイランス、インフルエンザウイルスサーベイランス

<刊行物>

インフルエンザ診断マニュアル

（国立感染症研究所、共同執筆）

高橋 雅輝（岩手県出身）

岩手大学（獣医公衆衛生学教室）

平成6年卒



BSL 3 実験室

【採用から現在まで】

平成6年入庁

久慈保健所

一関保健所大東支所

食肉衛生検査所

環境保健研究センター

(横浜市立大大学院

医学研究科)

# 行政編 農林水産部 畜産課

## 県民の期待に応えたい

私は、小動物病院に5年間勤務した後、公務員獣医師になった経験を持っています。顧客と接する機会は、犬・猫や大家畜の臨床が一番多いと思われるかもしれませんが、なんと、顧客の数は、公務員獣医師が業界No.1。お母さんの笑顔を含め、まさに究極のサービス業！

## 復興加速！ 畜産王国の早期再生！

本県は、原発事故による放射性物質被害により、牧草地の除染、汚染牧草の処分、廃用牛の適正出荷など、生産者、関係機関・団体が連携して、畜産経営の早期回復に取り組んでいます。ぜひ、皆さんも私達と一緒に、畜産王国の再興を叶えてみませんか！

## いわて発！ 公務員獣医師の魅力

公務員獣医師の職域（農業系）は、家畜保健衛生所、畜産研究所、農業大学校、振興局、県庁と幅広い職場で、検査、臨床、試験研究及び行政等、自分に合った分野の仕事が選べます。また、家畜の頭数も全国トップシェアとは、まさに、やりたい仕事がある！

坂田 健一（岩手県出身）  
麻布大学（内科学研究室）平成6年卒



牧草地除染風景



母ちゃん研修会

【採用から現在まで】  
平成11年入庁  
盛岡家畜保健衛生所  
県北家畜保健衛生所  
本庁畜産課  
県南広域振興局農政部  
本庁畜産課

# 行政編

環境生活部 自然保護課

## 人と野生生物との共生を考える

「希少野生生物の保全」と生態系バランスを壊す「外来生物等の防除」、これが業務の大きな柱です。野生動物も同様に、「保護」と「管理」の視点による対応が必要です。現在、人と野生動物の関係が崩れ生態系被害や農林業被害が問題になっていますが、共生のための明確な答えはありません。分析→対策→検証を繰り返しながら、全体を見渡すバランス感覚や状況に応じた柔軟な対応が求められます。



捕獲の担い手研修会

## 職場も生物（業種）多様性の見本！？

職場には、獣医、林務、水産、土木及び法務担当者など、様々な分野の職員がいます。また、仕事の関係者も、狩猟者団体、動物園、水族館、動植物等の専門家、自然保護団体、再生可能エネルギー開発事業者等々、まるで業種見本市のような職場です。



狩猟免許試験

## 野生動物救護の意義

野生動物は、豊かな自然の構成員の1つです。「救護」は、その構成員である動物を自然に返し、多種多様な生き物が将来にわたって存在し続けることを目的としています。このため、増えすぎて生態系や農林業に被害を及ぼす、いわゆる「有害鳥獣」については救護しない等、やむを得ない対応をすることもあります。

奥村 亮子（岩手県出身）  
北海道大学（獣医内科学教室） 平成9年卒



【採用から現在まで】

平成9年入庁

一関家畜保健衛生所  
盛岡家畜保健衛生所  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所  
本庁自然保護課



# 行政編

保健福祉部 医療政策室

## 現場主義

感染症対応では、公衆衛生学や微生物学等の獣医師の知識が求められる機会が多くあります。特に保健所における発生予防や拡大防止のための県民に向けた情報発信や指導は重要な仕事であり、それを支える研修会や職員育成の仕組み作りは有意義な仕事と考えています。



デスクにて

## ネットワーク作り

行政職には、獣医師のような専門職の他に事務職が多く、また、業務によっては民間の方々との連携が求められることもあります。そのため、日頃から職場内の情報共有はもちろん、市町村や医療機関等の関係者とのネットワーク作りを心がけています。



ミーティング中

## 社会の多様なニーズに応える仕事

大学入学時から大動物臨床を志していたので、行政の仕事はあまり知りませんでした。しかし、社会の多様なニーズや健康危機の発生を踏まえ、獣医師の知識・経験を持って、チームで課題に取り組む行政の仕事は、やりがいと新たな発見に満ちています。



高橋 秀彰（岩手県出身）

酪農学園大学（病理学研究室） 平成12年卒

【採用から現在まで】

平成12年入庁  
北上保健所

食肉衛生検査所（久慈）

食肉衛生検査所

本庁県民くらしの安全課

# 行政編 農林水産部

## 多くの公所経験、関係者との交流 それが宝

私は獣医師として家畜保健衛生所に入庁後、大半は県庁、振興局で一般農政の仕事に従事してきました。この間、庁内で多くの事務・技術職員との出会いがあり、また、現地の生産者や農業団体、関係機関の方々と充実した交流を持てたことにより、困難な仕事も乗り越えることができ、それが今の私の宝、財産。

## 常に問題認識を持ち、意気を感じて仕事を！

「常に問題認識を持って、仕事は意気を感じて取り組む」これが私の信条です。職員にもそう話しています。以前に、県庁流通課に配属され、経験の全くない野菜・花・果樹等園芸の業務を任された際、前向きな姿勢だけは絶やさず、職員らと問題認識を共有しながら対策を講じ、本県で初めて、県産りんごの台湾への輸出に成功。

## 「情熱」を絶やさず、「努力」を！

県職員になった際の情熱を配属先が希望と異なるから等といって投げ出すのではなく、その時々にも与えられた仕事に誠実に取り組み、問題認識を情熱に替え、自分の弱い部分を努力で補うことが大事。

渡辺 亨（岩手県出身）  
麻布大学（寄生虫研究室）

昭和59年大学院修了



試験研究課題の検討会



プロジェクト現地打合せ

### 【採用から現在まで】

昭和59年入庁  
久慈家畜保健衛生所  
本庁畜産課  
大船渡振興局農政部  
本庁農業経済課  
本庁流通課  
本庁団体指導課  
盛岡広域振興局農政部  
本庁畜産課  
畜産研究所

# 行政編 環境生活部 県民くらしの安全課

## これまでをふりかえって

本県初の女性獣医師として採用後、保健所、食肉衛生検査所、県庁等に勤務し、現在は県民の視点に立った総合的な窓口である当課の総括課長に就き、同課長職では初の獣医師として複雑かつ多岐な業務を担当しています。検査所勤務時は本県で発生したO157による集団食中毒の原因究明のため、衛生研究所での検査の応援を自ら希望し、盛岡保健所勤務時はBSEの発生を受け、盛岡振興局の部局連携で食の安全安心プロジェクトで県民のために業務をおこなった経験が、今の自分につながっていると思っています。また、いい上司にも恵まれました。

## 日々考えること

職場のトップとして求められることは、職員がそれぞれの分野で、その能力が十分発揮できるよう、様々な機会をとらえて人材育成していくことであると考えています。また、判断力以上に決断力が求められていることから、これでいいのか日々自分自身に投げかけています。そして何よりも職員が自由に話ができる雰囲気づくり、いわゆるコミュニケーションづくりが重要であると思っています。

白岩 利恵子（岩手県出身）  
岩手大学（獣医生理学研究室） 昭和53年卒



震災時の対応



料理コンテストにて

【採用から現在まで】  
昭和53年入庁  
保健所  
環境生活部





# 子育て編

中央家畜保健衛生所

## 子育てにやさしい職場環境

岩手県では、職員の妊娠・出産・子育てを支援する制度が整備されており、安心して仕事と家庭の両立ができます。産前・産後休暇（産前8週から取得可能）、育児休業（子どもが3才になるまで取得可能）の他、妊婦健診受診のための休暇等も取得できます。

## 復職後も安心して働いています

復職は不安でしたが、育児中でも働きやすい環境が整っているのが安心です。子どもの看病のための休暇を取得できる他、子どもが1才半になるまでは、1日に2時間、勤務時間を短縮できます。保育園への送迎等に合わせて勤務時間を前後にシフトさせることもでき、家族と過ごす時間を作りやすいのでとてもありがたいです。

## 子育ても仕事もがんばっています！

職場内には、子育ての先輩や、同じ年頃の子どもをもつ同僚がいるので心強いです。周りの人に支えられ、育児と仕事の両立を頑張っています。大変なこともありますが、とても充実した毎日です！

木崎 あゆみ（愛知県出身）  
岩手大学（獣医生理学研究室）平成22年卒



もうすぐ第2子が



忘年会にて

【採用から現在まで】  
平成22年入庁  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所

# 子育て編 環境生活部 県民くらしの安全課

## 男性の子育てにも優しい職場環境

息子が一人います。妻も働いており共働きなので、平日は保育園に預けています。岩手県の子育て支援制度には、育児休業（男女ともに取得可能）や子の看護休暇（年間5日以内、6年生まで）などがあります。幸いなことに、あまり風邪なども引かず元気に育っている息子ですが、通常の年次休暇とは別に、看護休暇も利用できるのも、いざという時を考えると心強く感じています。



## 父親として子育てに積極的に参加

仕事は色々大変なこともあります。子育てにもできるだけ参加できるように日頃から心がけています。保育園への送迎は妻と分担し、妻が仕事や職場の行事などで帰りが遅くなる時は、自分が仕事を早めに切り上げ、息子の相手をするようにしています。

仕事で疲れて帰った時に、息子の笑顔を見ると、また仕事を頑張ろうという気持ちになります。

子育てと仕事のバランスが大事だと感じています。



松舘 宏樹（岩手県出身）  
岐阜大学（家畜微生物学講座） 平成12年卒

休日は息子優先

【採用から現在まで】  
平成12年入庁  
食肉衛生検査所  
環境保健研究センター  
保健福祉部医療政策室  
本庁県民くらしの安全課

# 1 ターン編 中央家畜保健衛生所

## 岩手の魅力を肌で感じて

獣医系大学で岩手大学を選んだのは、スキーが気軽にできる地に住みたかったから...

岩手の魅力はスキー場だけじゃなく、夏山・冬山、空に海、美味しい農畜産物に、果ては郷土芸能まで、心を鷲掴みにされて、そのまま岩手県に。

就職してからも、余暇を利用してテレマークスキー、熱気球、狩猟、サーフィン、農作業、そして鹿子躍りと地域に溶け込み、岩手の自然を満喫しています。また、復興支援の一助として気球を飛ばしたり、郷土芸能の海外公演や継承活動を続けられるのも、公務員獣医師だからこそ。

この岩手という土地で得られる恵、感動に感謝をしながら、毎日の仕事を頑張れます。

佐藤 裕夫（愛知県出身）  
岩手大学（公衆衛生学研究室） 平成17年卒



鹿子躍り  
(大東水かけ祭り)



釜石復興支援係留気球

【採用から現在まで】  
平成17年入庁  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所



# 再就職編

中央家畜保健衛生所

## 北海道から転職して

いつかは地元のために仕事をしたいと思い、大学卒業後は、畜産の盛んな北海道に就職しました。北海道では、人より牛が多いといわれる道東の家畜保健衛生所に勤務し、充実した日々の中で多くのことを学びました。その後、地元である岩手県に戻り、県南→県北→中央と、3か所の家畜保健衛生所に勤務しました。勤務してわかったことは、それぞれの家畜保健衛生所が管轄する地域には、それぞれ特色があることです。県南地域は、前沢地区を中心に肉牛生産農家が多く、肉牛改良に力を入れていること。県北地域は、九州に匹敵するほど養鶏業が盛んであり、中央管内は葛巻町をはじめとする酪農地域であること。地元で仕事をするようになって、初めて出身県の畜産を知ることができました。それぞれの家畜保健衛生所に勤務したことで、様々な畜種の疾病について学ぶことができました。

現在は、病性鑑定課に属し、家畜の疾病・死亡原因を検査する仕事をしています。北海道で学び、経験したことを活かして、地元の畜産のために仕事をしたいと思っています。



小笠原 房恵（岩手県出身）

酪農学園大学（臨床繁殖学研究室）

平成14年卒



病性鑑定研修会  
実習風景



病性鑑定研修会  
講義風景

【採用から現在まで】

平成18年入庁

県南家畜保健衛生所

県北家畜保健衛生所

# 再就職編

中央家畜保健衛生所

## 生き生きと働いています

獣医師を志す多くの学生と同様、小動物臨床を目指していましたが、寄り道のつもりで参加した青年海外協力隊で、産業動物の魅力に目覚め、その後の北海道での家畜診療業務を経て、出身地である岩手県に転職しました。学生当時、家畜保健衛生所に対するイメージは全くありませんでした。しかし、家畜と接する仕事を通じ、予防衛生や地域ぐるみの疾病対策の重要性を認識し、今の仕事を選択しました。

中途採用者からみた県獣医職は、家畜衛生、試験研究、病性鑑定、公衆衛生、畜産行政・・・など、幅広い業務経験者が互いに共鳴しあう、噛めば噛むほど良さが分かる職場であると感じます。

現在、職務上の自己のテーマと、趣味や家庭との両立を図れる環境に恵まれ、生き生きと働いています。



千葉 由純（岩手県出身）  
北海道大学（臨床分子生物学教室）

平成9年卒



短角牛の放牧衛生検査



つくばでの長期研修

【採用から現在まで】  
平成17年入庁  
県北家畜保健衛生所  
県南家畜保健衛生所  
中央家畜保健衛生所

# 岩手県獣医師修学資金編

食肉衛生検査所

## 心強い岩手県獣医師修学資金

大学1年次から4年次までは生活費を得るためにアルバイトをしていました。高学年になると研究室の仕事、卒業研究、国家試験のための勉強で忙しくなるために、アルバイトのための時間を割くことが難しくなります。私は岩手県獣医師修学資金制度を4年次から利用し、アルバイトをやめたので、学業に専念することができました。



豚の生体検査

## 岩手県獣医師職員を志す方へ

修学資金（毎月7万円）の貸付を受け、卒業後、県、農業共済組合、農業協同組合等に獣医師として就職し、貸付期間の1.5倍の期間働くと貸付金の償還が免除されます。

大学4年次に、将来の就職先を決断するには、勇気が必要でした。早い段階で自分の進む道を決め、勉強や研究に専念する環境を作れたので、あの時の決断は正解だったなと思っています。



豚の内臓検査

佐々木 泰平（岩手県出身）

岩手大学（獣医臨床繁殖学研究室） 平成25年卒



【採用から現在まで】  
平成25年入庁  
食肉衛生検査所



# 部局間人事交流編

県北家畜保健衛生所

## One Health

これまで、畜産、動物愛護、食品衛生、野生生物保護の分野で、様々な人畜共通感染症に関わる仕事を経験しました。

民家庭先での疥癬症タヌキの保護、O157と動物ふれあい事業のあり方、口蹄疫で注目されたパラポックスのカモシカ、鳥インフルエンザと負傷野鳥の収容増加、タイ帰国者の発症で改めて感じた狂犬病の怖さと啓発の大切さ…。どのケースでも解決の鍵は、“獣医師として科学的な知識に裏打ちされた対応や説明ができるかどうか”でした。

うまく解決できたケース、失敗したケース、どちらもありませんでしたが、獣医師として広いアンテナで知識を集め、勉強し続けることの重要性を学びました。

人と動物の健康を守るため、どちらにも働きかけることができるのは獣医師だけです。そして動物が存在するあらゆる分野を網羅できることは、公務員獣医師ならではのやりがいだと感じています。

金子 和華子（岩手県出身）  
岩手大学（獣医寄生虫病学研究室）平成9年卒



野鳥のインフルエンザ検査



オオワシのレントゲン検査

【採用から現在まで】  
平成12年入庁  
中央家畜保健衛生所  
宮古地方振興局農政部  
大船渡地方振興局  
保健福祉環境部  
本庁自然保護課  
県北家畜保健衛生所

# 部局間人事交流編

県南家畜保健衛生所

## Farm to Table

保健所と食肉衛生検査所で食品・食肉衛生を担当しているときは、消費者のために、安全・安心な食品・食肉を提供するために仕事をしていました。

部局間人事交流で家畜保健衛生所に異動し、農場の方に、健康な家畜を生産するための指導をする仕事につきました。

私は現在、養豚場にHACCP方式による生産を指導しており、若い従業員と研修を通じて、安全な食肉を生産するために一緒に勉強しています。

今後、このような農場がもっと増え、畜産物のFarm to Table「農場から食卓まで」の安全・安心のルールがつながればいいと思います。また、このような一連の業務に携われるのが県職員の魅力だと考えています。



昆野 雄介（岩手県出身）  
酪農学園大学（第1内科学教室）

平成16年卒



農場での研修会



生産者向け講習会

【採用から現在まで】  
平成16年入庁  
釜石保健所  
食肉衛生検査所  
県南家畜保健衛生所

### 公衆衛生業務と家畜衛生業務に従事して

公衆衛生の現場を離れ、家畜保健衛生所で病性鑑定業務に従事しました。部局、業務内容も異なることから、戸惑いもありましたが、上司や同僚獣医師に支えられながら過ごした3年間は、懐かしく思い出されます。家保での生産性向上に関する業務を通じ、食の安全安心に関する視野も広がり、また、家保勤務時には鳥インフルエンザの防疫対応で茨城県への派遣も経験し、部局を越えた連携が必要となる鳥インフルエンザ等の危機管理対応についても大変良い経験になりました。

獣医師は、職域が広く、様々な業務への対応が求められます。部局間の人事交流によって得る経験は、公務員獣医師としても、一獣医師としても、また、県民サービスを考える上でも貴重な財産となるものです。

佐藤 敦（岩手県出身）  
麻布大学（公衆衛生第2研究室） 平成元年卒



鳥インフルエンザ  
防疫演習

【採用から現在まで】  
平成元年入庁  
食肉衛生検査所  
保健所  
県南家畜保健衛生所  
本庁環境生活企画室